

平成 7 年度

エコロジカルな消費生活者の育成をめざした
家庭科、技術・家庭科の指導法の研究

—— 「意思決定」に視点をあてて ——

川崎市総合教育センター 家庭科、技術・家庭科研究会議

エコロジカルな消費生活者の育成をめざした家庭科、技術・家庭科の指導法の研究

— 「意思決定」に視点をあてて —

家庭科、技術・家庭科研究会議

庄司 順子¹ 渡辺 安代² 佐藤真二郎³ 西田 令子⁴ 渡邊 洋子⁵

要 約

近年、わが国の科学技術の著しい進歩と社会経済の急激な発展は、私たちに豊かで便利な生活をもたらしたが、その反面、さまざまな環境問題や消費者問題などを引き起こすことにもなった。このような問題を解決していくためには、私たちが生活の仕方や生活に対する考え方を大きく変えていくことが重要な課題となってきた。つまり、従来の買い物教育的な消費者教育の考え方ではその解決にはならず、環境教育の視点を含んだ消費者教育の推進が叫ばれるようになったのである。本研究会議では、この環境教育の視点を含んだ消費者教育を「エコロジカルな消費者教育」と定義し、そのねらいを環境に配慮した生活を意思決定できる消費生活者の育成にあると考えた。そして、家庭科、技術・家庭科の各題材、領域の中から「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出し、小・中学校を通した題材一覧を作成した。また、その題材一覧を使って、「意思決定」を促す授業を実施し、「エコロジカルな消費者教育」における「意思決定力」の育成についての研究を進めてきた。その結果、「意思決定の場」を学習の中に設定することは児童生徒の「意思決定力」の育成につながるということがわかった。また、各題材、領域の中から「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出したことは、学習の中での環境教育の視点を含んだ消費者教育の展開を容易にしたといえる。今後も「エコロジカルな消費者教育」の観点での「意思決定」の授業を繰り返し、継続的に行うことが「エコロジカルな消費生活者」の育成につながっていくと考えている。

キーワード：家庭科、消費者教育、環境教育、エコロジカル、消費生活者、意思決定

目 次

はじめに			
I 主題設定の理由	84	3. 検証授業を通して見た、「エコロジカルな消費生活者」としての児童生徒の育ち	88
II 研究の方法	85	(1)短期の見取りの実際	88
III 研究内容および結果の考察	85	(2)長期の見取りの実際	93
1. 「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出した題材一覧表の作成	85	IV 研究のまとめと今後の課題	97
(1)「エコロジカルな消費者教育」とは	85	(1)研究のまとめ	97
(2)「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出した題材一覧表について	85	(2)今後の課題	98
2. 「意思決定」について	87	おわりに	98
(1)消費者教育と意思決定	87	・参考文献・指導助言者	98
(2)意思決定プロセスについて	87		

¹川崎市立藤崎小学校教諭（主任研修員）

²川崎市立新町小学校教諭（研修員）

³川崎市立南生田中学校教諭（研修員）

⁴川崎市立住吉中学校教諭（研修員）

⁵川崎市総合教育センター研修指導主事

はじめに

人間の生き方にかかわる教育としての消費者教育の重要性については、社会教育の中では以前から言われていた。しかし、学校教育の中での消費者教育については買い物教育的な考え方が根強く、児童生徒の生活と深くかわりがある家庭科、技術・家庭科でさえも、品物のじょうずな選び方、買い方を学ぶという消費行動に重点が置かれた指導がなされてきた。

しかし、近年、わが国の科学技術の著しい進歩と社会経済の急速な発展は、さまざまな消費者問題や環境問題などを引き起こすようになり、買い物教育的な考え方の消費者教育では解決できない事柄が多くなった。

今回の学校指導要領の改訂では、家庭科、技術・家庭科教育に消費者教育に関する内容が、明確に盛り込まれた。このことから、児童生徒の主体的、実践的態度を支えるものとしての消費者教育の重要性が、社会教育の場だけでなく学校教育の中でも位置づけられるようになったといえる。また、環境教育推進のために『環境教育指導資料』の小学校編、中学校・高等学校編が、文部省から出版された。このことから、これからの児童生徒が保護され、守られる消費者としての姿から、環境保全に配慮しながら、個人と社会の質の向上のために責任をもって行動する消費生活者の姿へと変わっていかねばならないということがいえる。そこで、家庭科、技術・家庭科教育の中で、環境教育の視点を取り入れた消費者教育の指導法を研究することが必要になってきた。

I 主題設定の理由

児童生徒を取り巻く社会環境は急速に変貌を遂げつつある。今井光映氏は『学校消費者教育推進のマニュアル』の中で消費者の置かれている状況を以下のように述べている。

『消費者が一般に迫られている経済社会環境は、大きな潮流として成熟化をタテ糸とし、それにキャッシュレス化、サービス化、情報化、高齢化、国際化などの具体的な変化をヨコ糸として織りなされている。そのような経済社会環境の変化の中に消費者は置かれている』¹⁾

まさに科学の進歩と経済の発展は、児童生徒をふくめての私たちの生活を大きく変えたといえることができるだろう。

かつて児童生徒は必要とするものを親から買い与えられるというのが一般的であったが、今日では子どもが小遣いなどのお金を使って高価な物を買う機会が増えてき

た。しかし、前述したように経済社会の大きな変化に伴って、経済の仕組みに変化が生じ、取引の複雑化・多様化が生み出された。その結果、小学生や中学生が雑誌の広告による通信販売のトラブルに巻き込まれたり、高校生のキャッチセールスなどによるトラブルが多発している。つまり、児童生徒の多くは、経済の仕組みの変化についていだけの消費生活者としての能力がしっかりと身につけているとはいえない状況にあるといえるだろう。

また、私たち人間は、生産から消費・廃棄という一連の生活の流れの中に生きてきた。確かに科学の進歩によって私たちの生活は便利になったが、気がつかないうちに環境に悪影響を与えてきた。例えば、ゴミ処理の問題・大気汚染・騒音問題などの生活環境の悪化が深刻化している。このようなことを解決していくためには、私たち自身が生活の仕方や生活に対する考え方を大きく見直していかなければならない。

現代の経済社会の仕組みの中で、児童生徒が消費生活者としてよりよい家庭生活をおくるためには、地球環境までも視野に入れた消費生活を営むことができる実践的態度を身につけなければならない。そのためには児童生徒には賢明な「意思決定力」が備わっていることが必要になる。本研究会議では消費者教育の本質を「意思決定力」の育成にあるととらえ、賢明な意思決定力を備えた消費生活者として児童生徒を育成することが、家庭科、技術・家庭科教育の急務であると考えた。

そこで、環境教育の視点を取り入れた消費者教育（以下「エコロジカルな消費者教育」と呼ぶ）を家庭科、技術・家庭科の学習の中に展開していき、環境に配慮した生活や責任ある行動を取ることでできる消費生活者としての児童生徒の「意思決定力」を育成していきたいと考えた。

研究主題を『エコロジカルな消費生活者の育成をめざした家庭科、技術・家庭科の指導法の研究－意思決定に視点をあてて－』と設定し、次のような2つの観点から主題に迫りたいと考えた。

- ①小・中学校の各題材の中の「エコロジカルな消費者教育」の観点を明らかにした題材一覧を作成し、有効性を探る。
- ②児童生徒の「意思決定力」を育てるための指導法を探る。

¹⁾ 『学校消費者教育推進のマニュアル』 旺文1992年P. 10

Ⅱ 研究の方法

1. 研究の仮説

「エコロジカルな消費者教育」には、環境への負荷が少ない生活様式を「意思決定」できる消費生活者として児童生徒を育成する目的がある。そこで、「エコロジカルな消費者教育」を具体的に家庭科、技術・家庭科教育の中で展開していくために、次のような研究仮説をたてた。

エコロジカルな消費者教育の観点を指導計画の中に明確に位置づけて学習を展開していくことにより児童生徒が自ら考え、意思決定することによって環境保全に配慮し、主体的、実践的な生活をおくろうとする消費生活者として育つ。

2. 研究の計画

仮説にもとづき、次のような3つの柱をたて、研究を進めることにした。

①小・中学校の家庭科、技術・家庭科の学習内容の中の「エコロジカルな消費者教育」の観点をとりだした題材の一覧表の作成

②児童生徒の「意思決定力」の育成のための指導法の検討

③「エコロジカルな消費者教育」の観点での授業および、指導資料の作成

研究の進め方は次の通りである。

- ・「エコロジカルな消費者教育」の内容を分析する。
- ・「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出した小学校、中学校の題材一覧を作成する。
- ・「意思決定プロセス」の構造図の作成と「学習過程のステップ」の内容を検討する。
- ・「意思決定の場」を設定した指導案を作成する。
- ・小学校、中学校での検証授業を実施し、検討する。

Ⅲ 研究内容および結果の考察

1. 「エコロジカルな消費者教育」の観点を 取り出した題材一覧表の作成

(1)「エコロジカルな消費者教育」とは

アメリカの家政学の母と呼ばれるエレン・リチャーズは優境学を提唱し、多くの場合、生態学的に正しい生活は経済学的にも正しい生活であり、生活がシンプルほど生態系は安定すると語っている。この生態学的という言葉をも「ecological(エコロジカル)」と把握し、今村祥子・住田和子両氏は『経済活動に重点をおく消費者教育を「エコノミカルな消費者教育」、経済学的視

点より生態学的・環境調和的視点を優先し、私たちの消費生活を問い直す消費者教育を「エコロジカルな消費者教育」と定義づけられる』と述べている。¹⁾

本研究は、環境教育の視点をもった消費者教育を家庭科、技術・家庭科教育の中で実現していこうとするものである。環境教育のねらいは、広範囲にわたっており、しかも、さまざまな要素が含まれている。しかし、本研究会議で考えている環境教育のねらいとは、私たちの毎日の生活の中でよりよい環境保全に努めていこうとする意欲や態度を培うことと考えている。つまり、環境に配慮した生活のための「意思決定力」を育成していくことである。

文部省の環境教育指導資料－中学校・高等学校編によると、環境教育は消費者教育の視点を併せ持ち、環境に対して責任ある消費生活を営める人間の育成をめざす生涯教育として位置づけられている。そこで、本研究会議では消費者教育の中に環境教育の視点を含めることを、今村・住田両氏のいう「エコロジカル」と定義し、環境保全に目を向け、環境に配慮した生活を意思決定できる消費生活者としての児童生徒の育成をめざした。

そこで、家庭科、技術・家庭科における「エコロジカルな消費者教育」のねらいを下記のように考えた。

家庭科、技術・家庭科における

「エコロジカルな消費者教育」のねらい

- ①個人・家族・社会の持つ価値体系の中で環境に配慮する消費者意識をもつこと
- ②環境保全にかかわる実践的態度がとれること
- ③生活環境や資源に配慮する知識や生活技術をもつこと

(2)「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出した題材一覧表について

本研究会議では、「エコロジカルな消費者教育」は家庭科、技術・家庭科のある領域や題材の一部のみで行われるものではなく、家庭科、技術・家庭科の学習全体で行われるものと考えている。櫻井純子氏、橋本都氏は、『小学校家庭科で進める環境教育』で「よりよい家庭生活への実践的態度を育成するため、環境に関する内容を家庭科の指導計画に位置づけて継続的に指導をしていくようにする」と述べ、環境教育の観点を取り出した全体計画を示している。²⁾この考えは、

¹⁾ 「日本家庭科教育学会誌」第36巻 第2号 1992年 P. 74

²⁾ 櫻井純子・橋本都 『小学校家庭科で進める環境教育』 明治図書 1994年 P. 30

前述した本研究会議の「エコロジカルな消費者教育は、家庭科、技術・家庭科の学習の中で継続して行われる必要がある」という考えと一致すると捉えた。そして、環境教育の観点に消費者教育の観点を加えて、「エコロジカルな消費者教育」の観点を次のように導き出した。

「エコロジカルな消費者教育」の観点と内容	
ア. 環境に配慮した商品の選択	環境保全を考えた商品を選ぶことができる。
イ. 健康で安全な生活	健康で安全な生活の仕方について理解したことを実践する。
ウ. 資源の有効利用	資源を有効に使う生活の仕方を日常の中で実践する。
エ. よりよい環境の創造	人と人、人や物とのかかわり（住環境を含む）をよりよいものにするために考えたり協力したりする。

上記の4つの観点を学習の内容に応じて、関連の深いものについては◎、関連のあるものについては○であらわすことにした。

本研究会議では、前述したように「エコロジカルな消費者教育」の内容は、家庭科、技術・家庭科のどの領域、どの題材にも含まれると考えている。例えば、小学校の6年生の題材「わたしたちの家庭生活」を従来の消費者教育の考え方－買い物教育的な考え方－で見るとその内容が含まれているとは考えにくい。しかし、本研究会議では、「わたしたちの家庭生活」の学習内容から、家族が共に過ごす時間の必要性を知るという関連事項を取り出した。家族団らんの時間をつくり出すことで、家族のよりよい関係を深めることができるのではないかと考え、人と人のかかわりも環境と考える本研究会議は、その関連事項に「よりよい環境の創造」という観点が含まれているとし、○をつけたのである。このように家庭科、技術・家庭科におけるすべての領域、題材から「エコロジカルな消費者教育の観点」を取り出して、◎・○をつけて題材一覧を作成した。例として小学校6年の題材一覧の一部を示す。この題材一覧を使い、年間を通して、「エコロジカルな消費者教育の観点」を含んだ授業を行うことにより、児童生徒をエコロジカルな消費生活者として育成することにつながると考える。

< 題材一覧・小学校6年 >		
月	題材名	学習内容
4	生ちわ 活のた 家し 庭た	○家庭のはたらき ○生活時間調べ ○生活時間の工夫
10	物く ら し と 買 い	○毎日の生活と金銭 ○商品の選び方 ○金銭の記録 ○くらしと買い物
11		
12	快 適 な す ま い 方	○気候に合った住まい方 ○すまいと日光 ○暖房と換気 ○採光と照明 ○地域の環境とすまい
1	会 楽 食 し い	○会食の意義や目的 ○サンドイッチと飲み物の計画と実習 ○会食の献立と実習計画 ○会食の実習と会食
2	生 こ 活 れ か ら の 家 庭	○家族の協力 ○家族への贈り物
3		○家庭生活と社会

2. 「意思決定」について

(1) 消費者教育と意思決定

『消費者教育論』では、消費者教育で開発されるべき能力を次のように定義している。¹⁾

- ①商品・サービスを購入するに当たって、各人の価値資源の最大効用、多様な選択対象、エコロジー経済社会環境の変化を勘案し、十分な情報にもとづいて意思決定 (decision-making) する能力を開発する。
- ②市場に有効にかつ自信をもって参加し、消費者救済のための適切な活動をするために、法、権利請求の方法について十分な知識と理解をもつ能力を開発する。

③経済的・社会的・政治的システムの中での市民としての消費者の役割を理解し、そのシステムを消費者ニーズを満たすにふさわしいものにしていく方法を理解する能力を開発する。

とくに本研究会議では、①の“意思決定する能力”に着目し、児童生徒が主体的に生活をつくりだしていくためには、生活の中でのさまざまな場面で「意思決定」できることが重要であろうと考えた。

そして、ここでの「意思決定」とは決定するだけでなく、実践に移すまでを考えている。本研究会議で考える消費者教育は、児童生徒に、消費生活者としての賢明な「意思決定力」を培うことであり、児童生徒には環境保全を常に考え、環境に配慮した行動を起こすことのできる消費生活者であってほしいと願っている。

(2) 意思決定プロセスについて

本研究会議が考える「意思決定」とは、生活の中のさまざまな場面での「選ぶ」という行為にかかわるものすべてである。例えば、朝食に何を食べようか、どの服を着ようか、何をして休み時間を過ごそうか、発言するかしないか等、意識するしないにかかわらず、私たちの生活は多様な選択肢に満ちている。そのときにどういう選択をするかで、向かっていく生活の方向も変わっていくに違いない。その方向がよりよい生活の方向であるためには、児童生徒の「意思決定」が賢明であることが望まれる。

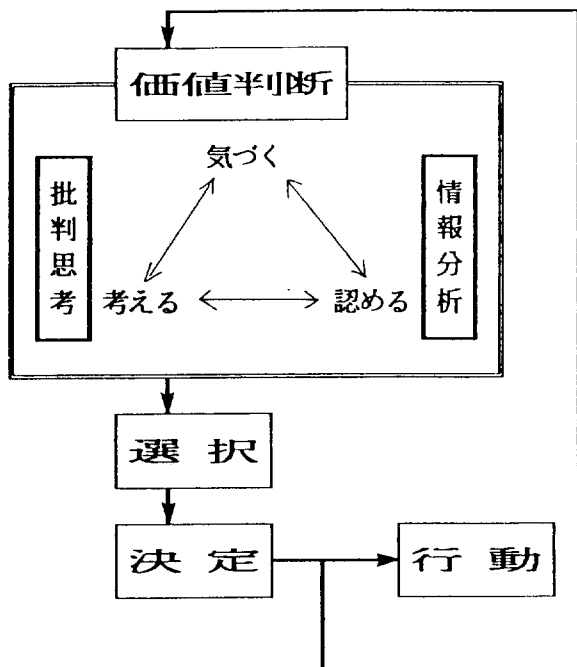
本研究会議で考える児童生徒の賢明な「意思決定」とは、即座にどうするかを決定することではなく、プロセスを追ってよく考え、自分に合った価値を選択し、決定し、行動に移すことである。つまり、各種の情報を分析したり、批判思考を働かせたりしながら、個人や社会にとってよりよい価値を見つけ、行動に移すことである。このように児童生徒が思考錯誤しながら、「意思決定」への道筋をたどることを本研究会議では、賢明な「意思決定」と考えている。

¹⁾ 研鑽・頼福 『消費者教育論』 機関ブックス 1994年 P. 41

関連事項	エコロジカルな消費者教育の観点			
	環境に配慮した商品の選択	健康で安全な生活	資源の有効利用	よりよい環境の創造
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭とは何かを考える。 ・ 時間の使い方について調べる。 ・ 家族が共に過ごす時間の必要性を知る。 ・ 生活時間の使い方を工夫する。 			○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活を支える金銭の大切さを考える。 ・ 必要性を考えた計画的な買い物がわかる。 ・ 品質表示、マークについて考える。 ・ レシートや領収書の意味や扱い方を知る。 ・ 簡単な金銭収支の記録をする。 ・ 買い物の仕方がわかる。 	◎	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 清潔で健康的な生活ができる。 ・ 季節に合った暮らし方を工夫する。 ・ 日光の効果と利用の仕方がわかる。 ・ カーテン、ブラインド、窓を有効に使う。 ・ 換気扇や窓の利用の仕方がわかる。 ・ 生活のための適正な明るさがわかる。 ・ 近隣の人々との関係を見直す。 ・ 環境問題に関心をもつ。 		◎	○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 会食の意義がわかる。 ・ 買い物の計画と買い物をする。 	○			○
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族への贈り物のアイデアスケッチをする。 ・ 贈り物の製作計画を立てる。 ・ 贈り物の製作をする。 ・ 家庭生活やくらしの様子の変化を調べる。 ・ 便利で快適なくらしをまとめる。 ・ 日常生活と地域環境の結びつきがわかる。 ・ 環境問題について調べる。 	○	◎	○	○

「意思決定プロセス」は、前述のようによく考え、自分に合った価値を選択し、決定し、行動に移すことであるが、いったん決定したあとに再度、情報を整理したり、考えたりという道筋を踏むことも考えられる。常に価値判断し、意思決定するという一方通行の道筋ではなく、行ったり来たりをくり返すことも考えられる。そこで、「意思決定プロセス」を下の図のように考えた。

意思決定プロセス



3. 検証授業を通して見た、「エコロジカルな消費生活者」としての児童生徒の育成

「短期の見取り」と「長期の見取り」の両面から、児童生徒の「エコロジカルな消費生活者」としての意識の変容を探ることにした。

(1)短期の見取りの実際

「短期の見取り」とは、学習時に使用したプリントに記述された児童生徒の感想や授業中の行動の記録から、児童生徒のその時間の「意思決定プロセス」の過程を読み取ろうとする方法である。

児童生徒がその学習時間に、賢明な意思決定の方向に向かっているか、また、賢明な意思決定ができていかなどを探ることができると思う。

また、これは賢明な「意思決定」ができない児童生徒への教師の支援の手がかりにもなるものである。次の時間での賢明な「意思決定」のための児童生徒への資料提供など考えることができる。

①「意思決定」の場を設定した学習過程

本研究会議では、児童生徒に「意思決定力」をつけるために、家庭科、技術・家庭科の学習の中に「意思決定」をさせる場を設定していくことが有効ではないかと考えた。

そして、家庭科、技術・家庭科教育における「意思決定」の場面として、エコロジカルな消費生活者としての意思決定ができる場面（直接的意思決定）と、エコロジカルな消費生活者としての意思決定ではないが、どうするかということに対して意思決定していく場面（間接的意思決定）、例えば、小学校6年の題材「これからの家庭生活」での家族への贈り物をあげる相手を誰に決めるかなどーを考えた。どちらの場合も前項2(1)で述べたように、「意思決定」ということでは重要である。なぜなら、毎時間の学習の中に直接的意思決定や間接的意思決定の場を設定していくことは児童生徒が繰り返し「意思決定の場」を体験することになり、「意思決定力」の向上を促すであろうと考えられるからである。「意思決定の場」の条件の一つは児童生徒が、自分の置かれている現状・状況を把握できることである。また、問題解決に必要な情報を集めたり、分析したりできる場であることも重要である。そこで、前述したような条件を考慮し、「意思決定の場」を設定した。実施した検証授業での「意思決定の場」をそれぞれの条件に照らして例として示す。

「意思決定の場」の条件

- ア. 児童生徒一人ひとりが価値の違いに気づくことができる「場」
 <例>くらしと買い物（小学校6年）
 - ・商品の選び方
 - ・おこづかい帳の是非
- イ. 児童生徒がどのような行動ができるかを価値の中で考えることができる「場」
 <例>調理の工夫（小学校6年）
 - ・加工食品の選び方
 冬のくらし（小学校6年）
 - ・暖かく快適な住まい方を考える調理実習（中学校）
 - ・計量用具の使い方
- ウ. 児童生徒が話し合いや体験を通して、それぞれの価値の多様性を認めることができる「場」
 <例>やさしい洗たく（小学校6年）
 - ・地球にやさしい洗たくの仕方電気（中学校）
 - ・電熱器具の電力消費量を知る

これら表の示した条件が、それぞれ相互に関連しあって、児童生徒の「意思決定」をより賢明な方向へ導くと考えられる。小学校6年生の題材「快適な住まい方」を学習しているとき、ある児童は「ぼくの家は、窓のところに小物を入れる棚みたいな家具があって窓が開けられない。窓が使えたら空気の入れかえとかできて、気持ちよく住めるのに」と自分の家の現状を捉えた。そして、友だちの「私の家では、家族が集まる部屋がちょっと寒くて暗い。窓があるけれど、タンスが置いてある。タンスを動かしたらいいと思うのだけど」という話を聞いた。そこで、さっそく家族に相談し、部屋の模様替えを行ったという。

「タンスを動かすといい」という情報が、この児童にとっては行動を促すものになったとのことである。このように「意思決定の場」に条件を与えることは、児童生徒の「意思決定」を促す意味で大切な要因となると考える。

「エコロジカルな消費者教育」の目標を達成するための授業の進め方については、『家庭科の授業』の中で、武藤八重子氏は、「学習目標を達成するには方略（ストラテジー）（意図的教授行動設計）が必要になる。その方略の中で有効であり、教師の専門性が要求されるものに授業過程計画がある。（略）この授業過程を本書では学習過程とし、消費者教育の目指す『自主的、合理的に判断できる消費者』を育てるためにはどんな学習過程が有効であろうかを考えた¹⁾」と述べている。本研究会議でも、学習の進め方として「意思決定の場」を取り入れることを考えた。そして、武藤氏の言う「学習過程」という言葉で、学習の進め方をあらわすことにした。

一般的には、家庭科、技術・家庭科の授業は、①導入→②展開→③終結という段階で進められることが多い。しかし、「エコロジカルな消費者教育」のねらいを「意思決定力」の育成にあると考える本研究会議では、前述したように学習過程に「意思決定の場」を設定することにした。児童生徒が賢明な「意思決定」をするためには、現状をよく知ることと、基礎知識の習得が必要であると考えた。

本研究会議の考える学習過程とその授業方法を次に示す。もちろん、系統的に学習するには、この順序が望ましいが、教材によっては扱い方に違いがあるので必ずしも順序通りでなくてもよい。とくに「v生活への実践化」は、教室で展開するだけでなく、家庭での実践にゆだねることもできる。

< 学習過程と指導方法 >

学習過程のステップ	授業方法例
i 現状把握 児童生徒が問題とすることは何かを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・事例提示 （ビデオ・本・雑誌） ・実物の提示・実験 ・資料情報の比較・検討 ・ロールプレイ・話題提供
ii 価値判断のための基礎知識の習得 問題解決のために情報を集める	<ul style="list-style-type: none"> ・個人やグループの調査・見学 ・資料提供（ビデオなど） ・討議・実験・実習 ・基礎知識の伝達・説明
iii 意思決定 問題解決の方法を決定し、解決をはかる	<ul style="list-style-type: none"> ・感想文・レポート ・意見発表・討論 ・ロールプレイ ・シミュレーション ・見学・識者の話を聞く
iv 課題の発展 解決したことをもとに新たな問題をさがす	<ul style="list-style-type: none"> ・感想文・レポート ・発表 ・家族への働きかけ ・地域への働きかけ
v 生活への実践化 行動をおこす	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への働きかけ ・感想文・レポート

¹⁾ 武藤八重子・松岡博・磯田敬子 『家庭科の授業』 教職出版社 1992年 P. 43

本研究会議では、学習ステップにしたがって指導案を作成し、児童生徒の「意思決定力」の育成を図った。指導案の例を下に示す。

1. 実施校 川崎市F小学校6年
2. 実施日 平成7年6月27日
3. 題材名 「くらしと買い物」
4. 学習の流れ

i 現状把握

買い物をするときの商品の選び方について考える。

ii 価値判断のための基礎知識の習得

家の人が買い物のときに注意していることや考えていることを学習ノートをもとに話し合う。

iii 意思決定

ロールプレイを行う。

- ・野菜サラダを作るために足りない材料を買いに行く。
- ・予算は500円。
- ・買い物する店は、スーパーと八百屋。
- ・選ぶことのできるきゅうりは4種類、たまごは3種類。

児童一人一人が自分の考えと友だちの買い物とを比べながら、きゅうりとたまごを購入する。

iv 課題の発展

きゅうりとたまごを選んだ理由をまとめる。
他の児童の商品の選び方の発表を聞き、再度自分の選び方と比べて感想を持つ。

v 生活への実践化

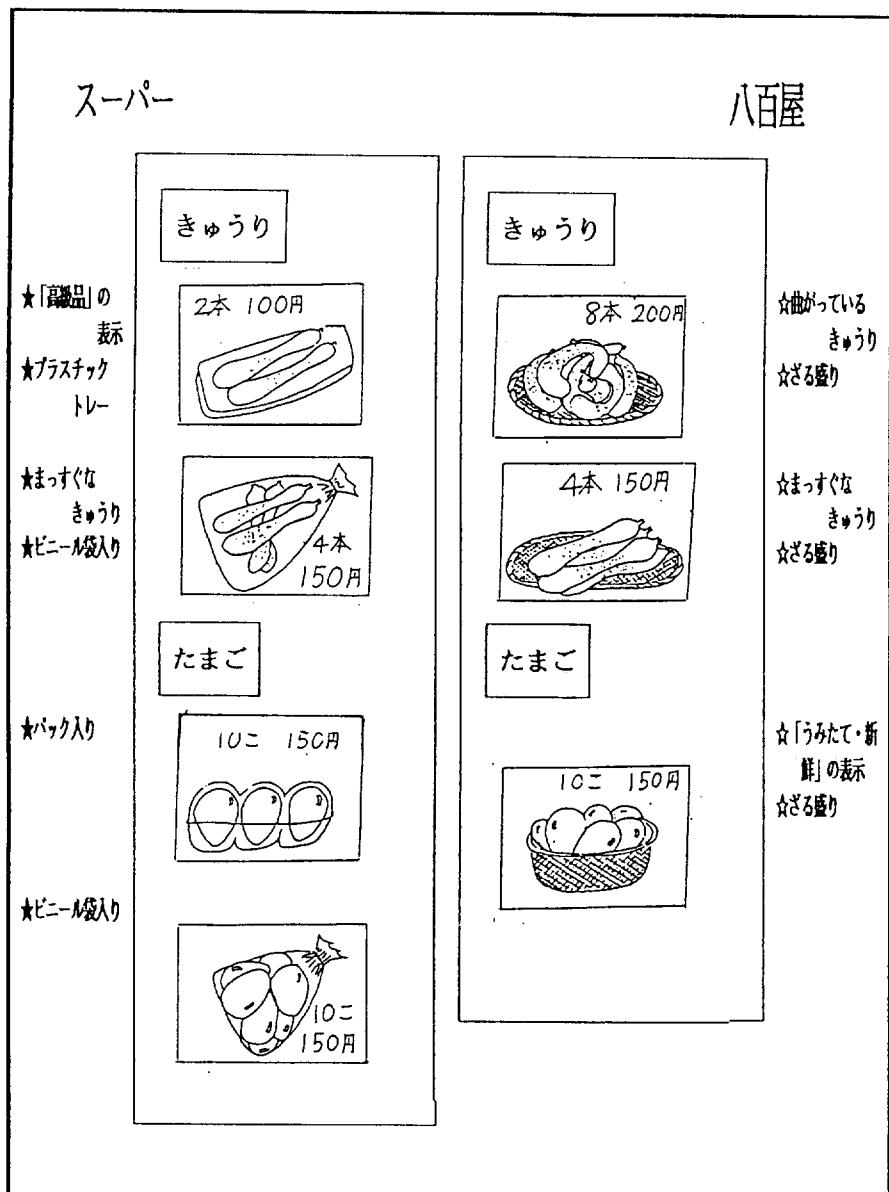
学習のまとめとして感想文を書く。

学習活動	予想される児童の反応 (エコロジカルな消費者教育の観点)	支援と評価(★)
1. ウォッチングしてきたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に必要なものかどうか考えて買い物をしている。 ・安い時にまとめ買いをしている。 ・賞味期限や品質表示を必ず見て買い物をしている。 ・家計簿をつけてお金の管理をしている。 	事前に買い物名人の買い物の工夫や品物の選び方の視点をまとめて提示する。
<p>買い物名人の買い物のしかたや品物の選び方を知って、買い物名人に近づこう。</p>		
2. 模擬店(スーパー・八百屋)で買いたい品物を選びその理由を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーできゅうりもたまごも選んだ。いっぺんに選ぶことができるからスーパーは便利。 ・2つの店を回ってきゅうりとたまごを買った。 ・曲がったきゅうりが安かったので選んだ。曲がっていても新鮮だし味は変わらないって家の人が言っていた。 ・友だちが八百屋できゅうりを選んだので、まねした。 ・たまごはパック入りを選んだ。パックだとわれにくいから。 	一人一人が自由に店を回り品物を選ぶことができるようにする。 ★品物を選んだ理由の根拠が明らかであるか。
3. 買い物風景の劇を見て、友だちの買い方と自分の買い方と比べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考えてきゅうりとたまごを選んでいる。 ・自分の選び方と同じ。 ・人によって品物の選び方はいろいろだ。 ・今度からもう少し考えて買い物をしたい。 	品物の選び方は一つではないことに気づかせる。
4. 買い物の劇の続きを聞いて考えたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物するときは、いろいろなことを考えて買わなくてはいけない。 ・品物をよく見ることが大切だ。 ・賞味期限や品質表示をみるのが大切だ。 ・プラスチックトレイやビニル袋などは、再利用するように考えていく。 	児童の品物の選び方を尊重しながら、環境に配慮した選び方にも目を向けるようにさせる。 ★自分の買い物の仕方や品物の選び方についての考えをまとめることができたか。
5. 学習プリントにまとめを書く。		

②児童の「意思決定」の実際

本研究会議では、「意思決定の場」での授業方法として、意見発表、討論、感想文、レポートを書く、ロールプレイ、シミュレーション、見学などを考えた。ここでは、検証授業Ⅰ（平成7年6月27日・川崎市立F小学校6年）でのロールプレイについて説明し、児童の「意思決定プロセス」の実際について述べる。前述したように「意思決定プロセス」の過程は、児

童生徒によってさまざまである。そこで、学習時の行動の記録、学習プリントに記述されている児童生徒の言葉や感想から、「意思決定プロセス」の過程を探り、それぞれの児童の「意思決定力」の向上が図られているかどうかを検証することにした。また、その結果を踏まえて、次の時間の「意思決定の場」におけるそれぞれの児童への支援の手がかりとすることも考えた。



夕食の献立である野菜サラダの材料（きゅうりとたまご）が、足りないで買いに行くという設定である。

児童が毎日の生活の中でよく利用している店は、スーパー・個人商店（八百屋・肉屋など）である。そこで、ロールプレイの「場」として、スーパーと八百屋の2つの店を考えた。きゅうりとたまごはそれぞれの店に実物を置き、児童が自由に手に取り、自分の目で選ぶことができるようにした。また、買い物のために持っていくお金は500円とした。

きゅうりは、値段、商品としての価値（曲がっている・まっすぐ）表示、包装を違ったものにして4種類を準備した。

たまごは、個数と値段は同じにして、表示と入れ物を違ったものにした3種類を準備した。

きゅうりとたまごの実際の置き方は左の図の通りである。児童はたまごときゅうりを自由に選び、買う品物を決定したときに、商品の前に並んでいるカードを取るようにした。また、2つの店を向かい合わせに作り、児童がその2つの店を行き来することでお互いの情報を交換できるようにした。

この「意思決定の場」では、Y子・N子・S男の3人の児童を抽出し、その「意思決定」の実際を見た。

この時期の児童の発達段階を踏まえて、家事経験や社会経験が多いか少ないかを参考にしてこの3人を抽出した。Y子は家事経験が豊かであり、N子は普通の

経験があると考えた。また、S男は多くないという判断である。この3人を抽出したことで、児童全体の傾向をつかめると判断した。

3人の「意思決定」の実際については、次の表に示す。

②抽出児童の「意思決定プロセス」の実際

Y子	父・母・兄二人・自分の5人家族である。両親は共稼ぎであり、兄二人は高校生と中学生である。家族が忙しいこともあって、夕食の後片付け、風呂掃除などの家庭の手伝いをよくしている。また、学校での調理実習に向けて、事前に家庭で試し作りをしてみるなど意欲がある。友だちの包丁さばきや調理の手順に助言を加えるという姿もよく見られた。家事の経験が豊富なことがうかがわれる。 (「意思決定プロセス」の過程は、価値判断に多くの時間をかけられる)
価値判断	①八百屋とスーパーの間を2回往復しながら、友だちの選んだカードを見せてもらっている。(情報分析)②八百屋で4本150円のカードをとった。K子の「曲がっているきゅうりの方がおいしくて、おかあさんが言っていた」という話をそばで聞く。(情報分析)③スーパーにもどり、2本100円のきゅうりを「高い」と言ってながめる。(批判思考)④八百屋にもどって4本150円のカードをもどす。(情報分析)⑤8本200円の曲がっているきゅうりのカードを取る。
決定	・八百屋の8本200円のカードを取った。(Kさんが「曲がっているのがおいしい」といっていたから、8本200円のきゅうりを買うことにした)
感想	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな人の話をよく聞き、見ためにまどわされてはいけない。間違えたら、次の買い物からもっとおいしいものを捜す。(学習カード) ●「曲がっていても品質は変わらない」とお母さんがいっていたけれど、おいしいとは知らなかった。お兄ちゃんたちがよく食べるので、本数が多いほうがいいくらい。こんな八百屋さんがあったらいいな。(インタビュー)
N子	父・母・自分・妹の4人家族である。妹は小学生であり、両親とも働いている。手伝いは夕食の後片付けをすることになっている。母親は働いているが、帰りが早いのでN子の手伝いの量は多くない。また、本人も塾通いをしているので手伝う日は限られている。家庭での実践は、Y子に比べると少ないといえる。 (「意思決定プロセス」の過程については価値判断に時間をかけられる)
価値判断	①友だちとスーパーをのぞく。(情報分析)②「どれを選んだの」と友だちに声をかける。(情報分析)③八百屋へ行き、そこでも「どれを選んだの」と声をかける。(情報分析)④いっしょにいた友だちは8本200円のカードを取るが、「ふつうの家族だったら4本で十分だし、お金も50円安いから」と八百屋の4本150円のカードを取る。(批判思考)
決定	・八百屋の4本150円のカードを取った。(八百屋のきゅうりの方が新鮮そうに見えたので、八百屋で買った)
感想	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなのウォッチングカードを見たり、聞いたりしたら、いろいろな買い方があってなるほどなと思った。買い物名人の常識をもっと知って、買い物がうまくなりたいです。(学習カード) ●八百屋さんのきゅうりがおいしそうに見えた(つやつや光っていたので)。8本200円は安いと思ったけれど、うちでは食べ切れない。残したら無駄になると思う。買いすぎはよくない。(インタビュー)
S男	父・母・自分の3人家族である。一人っ子。母親は専業主婦である。ペットの世話の他には、S男の仕事はほとんどない。家庭科の時間は、片付けることが苦手である。 (「意思決定プロセス」の過程は、家庭や社会での経験が少ないので、複雑ではないだろう)
判断値	①「混んでない方へいく」とスーパーに行った。(情報分析)②「高級品だって」と2本100円のきゅうりのカードを取った。③八百屋の方へ行った。(情報分析)④友だちが商品を選ぶのをながめていた。(友だちが買ったきゅうりより本数は少ないが、おいしければいいと思った)
決定	・2本100円のカードを取った。(高級品のきゅうりを買った人はあまりいなかったが、本数の多い方を買ってまずかったらもったいないから)
感想	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜とかはおいしくて、新鮮で安いかどうかよく見て買えばいいと思った。でも、ぼくはおいしくても高いのを買ったりしてしまうので、買い物はにがてだ。(学習カード) ●野菜サラダに使うから、2本でいいと思った。(学校で調理実習した時もきゅうりの本数は多くなかったから)(インタビュー)

<考察>

(1)「エコロジカルな消費生活者」としての「意思決定」の実際

Y子の「意思決定」の実際を考察してみると情報分析を繰り返しながら、自分によりよい情報を集めていることがわかる。8本200円の曲がっているきゅうりを買ったY子は、「家族がよく食べるのできゅうりの本数は多いほうが良い」と価値判断し、「意思決定」した。日ごろの経験を十分に生かして「意思決定」することができたといえる。Y子には、賢明な「意思決定」の方向によりいっそう向かうような情報の提供などの支援が考えられる。

N子も情報分析に時間をかけていることがわかる。決定するまでに何度か友だちに声をかけ、自分の価値と比べている様子がみとれる。とくに4人家族だからきゅうりの数は4本でいいと気づき、「意思決定」したことは、価値判断が十分に働いていると考えられる。このように「意思決定の場」を取り入れた学習をこれからも重ねることで、N子はより確かな「意思決定」の方向に向かっていくと思われる。「意思決定の場」の組み立て方に工夫が必要だろう。

S男の「意思決定」については、「高級品」という言葉に惑わされて買っているという友だちからの批判もあった。「買い物は苦手」というS男の経験不足が感じられるが、高いものを買うことがいけないのではなく、今、必要な物は何かに気付いて買い物ができることが重要なのである。S男の価値判断は、経験不足もあって十分機能していないと思われるが、「まずいきゅうりを買ったらもったいない」という情報分析から、高級品2本100円のきゅうりを買うという「意思決定」をした。しかし、「賢明な」という方向においては、これからの学習での支援が重要になってくると思われる。

抽出児童の「意思決定」の実際は、以上のようなものである。Y子・N子は、既習の調理実習を思い出したり、家庭での実践を振り返ったりと、それまでの経験や持っている知識の中で家族が食べるサラダの「量」やきゅうりの「品質」「値段」に目を向けて、それぞれ自分の考えでサラダの材料を選ぶことができた。S男は「意思決定の場」を設定した授業を繰り返すことで賢明な「意思決定」の方向へ向かうと思われる。

これらのことから、「意思決定」には「意思決定プロセス」が重要であり、とくに価値判断を十分に機能させることがよりよい「意思決定」へとつながるといえる。つまり、児童生徒の「意思決定力」を育成するには、授業に「意思決定の場」を設定することが大切だといえるだろう。

(2)長期の見取りの実際

「長期の見取り」とは、長い期間での、児童生徒の「エコロジカルな消費生活者」としての意識の育ちを探っていく方法である。「短期の見取り」の積み重ねを通して、一人ひとりの児童生徒の意識の変容に迫ろうとするものであるが、詳しい意識の変容を捉えるために授業後のインタビュー、事前調査と事後調査と比較、検討も参考にした。

「長期の見取り」には、長い期間が必要であることは前述した通りである。大きい流れとしては、児童生徒への事前調査のあと、「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り入れた授業を行い、一定期間をおいて事後調査を実施する。

川崎市立F小学校・6年生の家庭科の学習での「長期の見取り」の流れを例として示す。

<長期の見取りの流れ>

事前調査	
6月	「わたしのエプロン」 ★資源の有効利用
7月	「くらしと買い物」 ★環境に配慮した商品の選択 ★健康で安全な生活
9月	「夏のくらし」 ★環境に配慮した商品の選択 ★資源の有効利用
10・11月	「毎日の食事」 ★健康で安全な生活 ★資源の有効利用
12月	「快適な住まい方」 ★健康で安全な生活 ★よりよい環境の創造
事後調査	

各題材の「エコロジカルな消費者教育」の観点で、「意思決定の場」を取り入れた学習をする。各場面で「短期の見取り」をすることで、「エコロジカルな消費生活者」としての児童生徒の育成をめざした。

①題材の中での学習過程ステップの必要性

「意思決定力」を高めるためには、単位時間ごとに「意思決定の場」を取り入れた学習過程ステップが必要であることについては、「短期の見取り」の項で述べた通りである。しかし、短時間の「意思決定」だけでは、行動に移すというところまで意識の高まりを持続することが、困難なこともある。

そこで、一題材を見通した大きな流れの学習過程のステップが必要になってくる。ここで「意思決定」したことは大きな「意思決定」であり、児童生徒が自分たちの生活の中で行動に移すことが比較的たやすいと思われるものである。

次に川崎市立F小学校6年生の題材「くらしと買い物」（7月）と「快適な住まい方」（12月）における学習過程ステップの組み込み方を示す。

<題材への学習過程ステップの組み込み方>

・題材名…「くらしと買い物」 <検証授業Ⅰ> ・指導計画 第1次 買い物名人の秘密を探ろう 第2次 買い物をすると商品の何を見る？ 第3次 お金の出入りを記録してみよう 再発見，地球にやさしい買い物のしかた，品物の選び方		
i 環状把握	・家の人が買い物のときに注意していることや考えていることを話し合う。 ・買い物の劇をする。 ・友だちの買い物のしかたと自分の買い方を比べて感想をもつ。	第1次
ii 価値判断のための基礎知識の習得	・商品の選び方について課題をもつ。 ・調べたことをまとめて発表する。	第2次
iii 意思決定 iv 課題の発展 v 生活への実践化	・こづかい帳のつけかたを知る。 ・環境に配慮した買い物のしかたについて考える。 ・実践への意欲をもつ。	第3次

・題材名…「快適な住まい方」 <検証授業Ⅱ> ・指導計画 第1次 すまいの働きについて考えよう 第2次 暖かく快適に住まうためにはどうしたらいいだろう 第3次 暖かく快適な部屋をデザインしよう		
i 環境把握	・すまいの働きについて考える。 ・冬の住まい方を考える。 ・家族が集まる部屋の見取り図をかき，改善点を見つける。	第1次
ii 価値判断のための基礎知識の習得	・暖かく快適に暮らすために，こだわりたいことを考える。 ・各自の課題をもつ。 ・調べたことをまとめて，発表する。 ・暖かく快適にくらす工夫を取り入れた自分の部屋をデザインする。 ・友だちの発表を聞き，感想をもつ。	第2次
iii 意思決定	・家族のあつまる部屋を暖かく快適に暮らすことができるようにデザインする。	第3次
iv 課題の発展 v 生活への実践化	・実践への意欲をもつ。	

②長期の見取りの実際

<例>川崎市立F小学校・6年抽出児4名

抽出児		質問
	抽出児の学習に対する様子	「地球にやさしいくらし方を考えましょう」の回答 (5月の回答)
K男	環境保全について意欲的に学習を進めてきている。体験や知識はY子やM子に比べると十分ではないが，ごみを分別することに気づくなど実践力がある。	ごみをばい捨てしないで，ちゃんと捨てる。
Y子	環境保全について意欲的に学習を進めてきている。エコロジカルな消費者教育に関する知識も豊富である。	木や花を傷つけたりしないようにして，自然を大切にすることです。
M子	環境保全について意欲的に学習を進めてきている。エコロジカルな消費者教育に関する知識も豊富である。	わたしたちがいろいろなことをやっているせいで，どんだん木がなくなっている。木だけでなく，空気も汚れてきている。
O男	学習の進め方が受け身的であり，事前調査から考察すると，エコロジカルな消費者教育についての関心も薄い。	自然を大切にすることだと思ふ。

検証授業Ⅰくらしと買い物	検証授業Ⅱ 冬のくらし	質 問	意識調査 (5月~12月)
買い物名人になる秘訣を考える (第3次意思決定場面)	あたたかで、快適なくらし方を考える (第3次認識場面)	「地球にやさしくらし方を考えましょう」 (12月の回答)	「地球にやさしくらし方をしていますか」 5-たいへんしている1…ほとんどしてない
買い物名人になるためには、食品は賞味期限などパッケージやラベルをよく見て買う。文房具などは、見た目を選ぶのではなく、使いやすいものを買っていききたいと思う。	家は休むところなので、広くしたいと思う。家具の位置をずらし、窓を使えるようにした。	まず、ごみをあまりださない。出したとしてもリサイクルに使えるものなど、分別をきちんとする。 水などを大切に使う。洗剤などを使うときは、量をよく考えて使う。フロンガスが入っている物はオゾン層がこわれるので使わない。	5月 5 4 ③ 2 1 9月 5 4 ③ 2 1 12月 5 ④ 3 2 1
物を選ぶときには、人によっていろいろな選び方をすることがわかった。私は、使う目的を考えて選んでいききたいと思う。	特に変えたいところはない。窓は、南と西にあるので日当たりはいいし、電化製品に直接、日光が当たるわけではない。テーブルの大きさも、家族にはちょうどよい大きさだと思う。ちょっと照明が暗いので天井の蛍光灯を変えたい。	無駄に水は使わない。ごみは決められた場所に捨てるなどきちんと約束を守り暮らしていくことが地球にやさしい暮らし方だ。そして、私たちにとっても暮らしやすい日本(地球)になるのではないかなと思う。	5月 5 4 ③ 2 1 9月 5 4 ③ 2 1 12月 5 ④ 3 2 1
日用品などにフロンガスが入っているものがある。商品を選ぶときは、地球に害を与える物や人間の体に悪いものが入っていないかどうかをよく見て、これからは買物をしていきたい。	部屋の中にごちゃごちゃ物が散らかっているので、ワゴンなどに片付けて整理する。部屋が片付いていると気持ちがいい。使えないようなものは捨てていきたい。	カンとビンを分けたり、牛乳パックを集めてスーパーに持っていったり、本当に物が使えなくなるまで使うことが大事になると思う。自分のことだけ考えるのではなく、まわりに迷惑にならないかどうかを考え、生活していきたい。	5月 5 4 ③ 2 1 9月 5 ④ 3 2 1 12月 ⑤ 4 3 2 1
買い物するときには、注意を配らないといけない。	暖房はストーブだけなので、少し寒い。テーブルの下にホットカーペットを敷いたら暖かいと思う。家族がそろったときにホットカーペットを使うようにして、電気の無駄づかいをしないようにしたい。	ごみはちゃんとゴミ箱に捨てたり、電気を消したりしていきたいと思う。今まではテレビは見ないのに、つけたままのときがよくあり、電気の無駄づかいをしていた。これからは、家族にも無駄づかいをしないようにしていきたい。	5月 5 4 3 2 ① 9月 5 4 3 2 ① 12月 5 4 ③ 2 1

<考察>

(1)「エコロジカルな消費生活者」としての意識の育ちについて

Y子・M子は、検証授業Ⅰ・Ⅱのどちらにおいても「意思決定」の場面で価値判断に十分な時間をかけている。とくにY子は、検証授業Ⅱで課題に対して情報を分析し、わが家の暮らし方で十分であると「意思決定」している。Y子は「意思決定プロセス」を十分に踏まえ、「意思決定」することができるようになったといえるだろう。「意思決定力」の高まりが感じられるY子である。

二人とも、具体的な事柄を踏まえた上での環境保全を広く見据えた消費生活者としての意識の育ちがみとめられるようになった。

K男・O男も検証授業を重ねることで、「エコロジカルな消費生活者」としての意識が育ってきている。特に、環境保全への具体的な記述が増え、他人のまねでない自分自身で考えた賢明な「意思決定」の様子が、「地球にやさしい暮らし方を考えましょう」（12月）の回答からもうかがい知ることができる。

K男は検証授業Ⅱで「家具をずらし、窓を使えるようにしたい」と「意思決定」した。そのあと、家族と相談して実行に移した。K男に家具をずらしてのその後のことを聞いたところ、家族の人にも好評だったとのことである。K男の「意思決定力」は高まりつつあるといえる。

また、O男は、「地球にやさしい暮らし方を考えましょう」の回答に「家族にも環境保全を考えて生活をしてほしい」と書いた。5月の事前調査では、「エコロジカルな消費者教育」についての関心が薄かったO男であったが、12月の調査の結果からも「エコロジカルな消費生活者」として、育っているといえるだろう。4人の抽出児とも「地球にやさしい暮らし方を考えましょう」の記述の内容が、12月になると具体的になっている。このことは、「エコロジカルな消費者教育」の観点での「意思決定の場」を取り入れた学習を積み上げてきた成果とみることができるのではないだろうか。

さらに、「地球にやさしい暮らし方をしていますか」という意識調査での児童のつけた数値の平均を出し、比較を行った。5が「地球にやさしい暮らし方をしている」ということであり、3が「普通」、数字が小さくなるほど「していない」ことになる。5月の意識調査の平均は3.1であった。12月の意識調査の平均は3.8となった。5月と12月の結果を比べてみると、12月の方が児童の意識が高まっていることがわかる。「エコロジカルな消費生活者」としての意識は

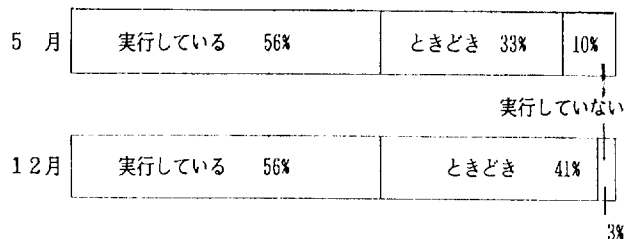
児童の中に確実に育っているということがいえると思う。

次に、児童の「エコロジカルな消費生活者」としての意識を調べた事前調査、事後調査の結果を示す。

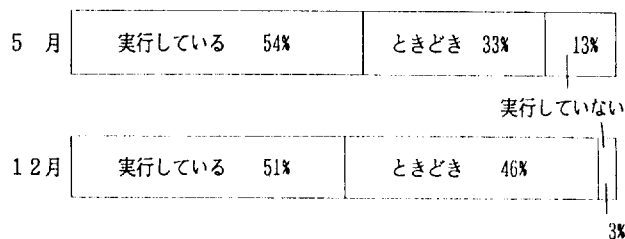
(2)事前調査と事後調査の結果

- ・対象……川崎市内小学校2校 6年（110人）
- ・実施月…平成7年5月・12月

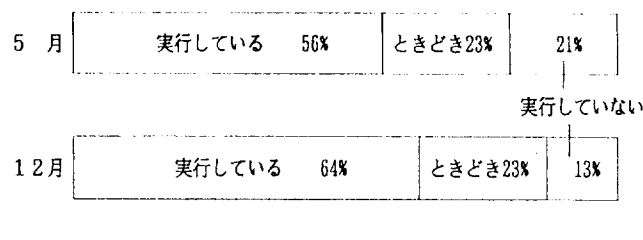
①空き缶やビンをゴミと分けて捨てている（資源の有効利用）



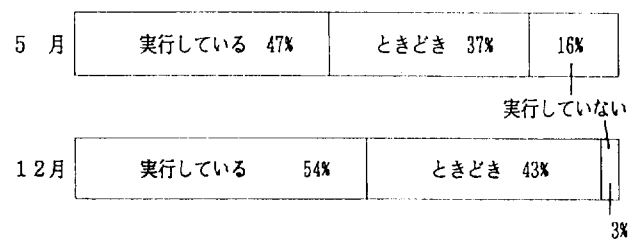
②買ったものは大切に長く使う（資源の有効利用）



③物を買うときは、品質表示や製造年月日などをよく見て買う（環境に配慮した商品の選択・健康で安全な生活）



④物がこわれたら、まず「直せないか」を考える（資源の有効利用・よりよい環境の創造）



<考察>

(1)事前・事後調査から

③の「環境に配慮した商品の選択」・「健康で安全な生活」という観点での児童の意識は少しずつだが、「エコロジカルな消費生活者」の方向に向いているということがいえる。その理由は、結果をみると、「実行している」「ときどき実行している」という児童の割合が増加し、「実行していない」という児童の割合

が減少していることによる。これは、「くらしと買い物」や「優しい洗たく・大切な衣服」での「エコロジカルな消費者教育」の観点での「意思決定」の経験を積み重ねてきた結果のあらわれだと考えられる。つまり、児童生徒には「環境に配慮しながら商品を選んでいこう」という気持ちが芽生えてきている。

また、「よりよい環境の創造」の観点についても、調査④の結果から同様なことがいえる。

そして、調査①・②の「資源の有効利用」の結果は、「実行している」「ときどき実行している」という児童の割合を合わせたものが、5月のころよりも増加している。ここでも児童の意識は「エコロジカルな消費生活者」の方向に向いてきているといえる。

とくに調査①のゴミの分別については、児童の関心の高まりを強く感じることができる。学校でも、調理実習のさいにはゴミを分別しているが、ふだんの学習の時でも、「これはここに捨てていいのかな」という声が聞かれるようになった。家庭でもゴミの分別を実行しはじめたという児童もいて、意識として育ちつつあることが感じられる。

調査②については、12月には「実行している」という児童が減り、「ときどき実行している」という児童の割合が増加している。このことについては、5月の調査のときにあいまに「実行している」に○をつけていた児童や、ここまでの学習の積み重ねから自分に厳しい判断を課した児童が、「実行している」から「ときどき実行している」に移ったのではないかと考えられる。これも学習の成果ということができよう。

本研究会議のめざした「エコロジカルな消費生活者」としての意識は、確実に児童生徒の中に育ちつつあるということが、事前・事後調査の結果からもいえるだろう。

(2)学習ノートから

児童の学習ノートから、一人一人の児童の変容を知ることができる。「くらしと買い物」で環境に配慮した商品を選んでいくことの大切さを学んだ児童は「洗たく」の学習では洗剤の選び方に、「毎日の食事」の学習での調理実習では、加工品の選び方にそれを生かしていた。洗たくには、洗剤よりも石けんを使用したと考えたり、材料に添加物の入っていないハムソーセージを選んで購入してくるなど、「エコロジカルな消費生活者」としての姿勢の育ちが感じられる。

学習後の児童の感想には、「地球のことを考えて」とか「地球にやさしい…」「水を汚さない」などの言葉が見られるようになった。12月の学習ノートに、年末の大掃除について環境に配慮していきたいとの記述もあった。

(3)行動の記録から

児童の意識が変化していることは、学習時の言動でも観察することができた。洗たくの学習のときに、児童の一人がせっけんで汚れた水を見て「こういうのを生活排水というんだ」と言っている。この児童は、事前調査の時にはほとんどの項目に関心がなく、「知らない、やっていない」と言いながら調査に取り組んでいたのである。何回かのエコロジカルな消費者教育の観点を使っての「意思決定」の授業がこの児童をわずかだが、変容させたといえるだろう。

また、家庭科室ではゴミの細かな分別をすることになった。以前は、教師の指示で燃えるゴミ、燃えないゴミに分けていたのだが、「ゴミをちゃんと分けて捨てようよ」という児童の声から、生ゴミ・紙・発砲スチロール・カンの4種類に分けて捨てることになった。児童が環境保全を意識し始めたということがうかがえる。

加工食品の選び方で品質表示や賞味期限、添加物について学習した児童が、そのあとの弁当作りでも材料の購入にさいして品質表示などをよく見たと言っていた。

中学校でも調理実習のさいに、油の処分をどうしたらいいか気にする生徒がいた。他にも窓をあけて換気を心がけたり、鍋に応じた火加減をグループで相談するなど、環境に配慮した生活を心掛けようとする様子が生徒に身受けられるようになった。

IV 研究のまとめと今後の課題

1. 研究のまとめ

①「エコロジカルな消費者教育」の観点を取り出した題材一覧を使っての学習の組み立てについて

「エコロジカルな消費者教育」の観点を指導計画の中に明確にしたことは、環境教育の視点を含んだ消費者教育を家庭科、技術・家庭科の学習の中に組み込むことを容易にさせたといえるだろう。「エコロジカルな消費者教育」の観点は、家庭科、技術・家庭科の学習の中のどの題材・領域にも含まれているので、特設の題材を組んだり、特別の題材構成をする必要がない。つまり、家庭科、技術・家庭科の学習の中に「エコロジカルな消費者教育」を自然に取り入れることができることが利点である。

「エコロジカルな消費者教育」の観点のかかわりを◎と○であらわしたことは、「意思決定の場」の設定での主眼の置き方などが、教師に一目でわかるという点でよかったといえる。常に教師が「エコロジカルな

消費者教育」を意識して学習を組み立てることは、児童生徒へよい刺激を与えることになった。

「エコロジカルな消費生活者」の育成には、長い期間が必要なので、小・中学校を通しての題材一覧の作成は、その意味でも意義があることといえる。そして、題材一覧を使って、学習を組み立てる教師自身が「エコロジカルな消費生活者」として変わることが、学習を変えていく大きな要因になったことも忘れてはいけない。

②「意思決定力」育成の場について

わたしたちの生活は、あらゆる場面でたくさんの選択肢に満ちている。児童生徒は、好むと好まざるとにかかわらず、常に「意思決定」を迫られている。家庭科、技術・家庭科は児童生徒の生活に直接、結びついた教科であるので、まさにその学習の中での「意思決定」は、児童生徒の生活に多くの影響を与えるものである。「意思決定の場」を設けることで、児童生徒はすぐに決断を下すことはせず、友だちの考えに耳を傾け、自分の考えと比べて決定する態度がみられるようになってきている。「意思決定の場」を設定することが、「意思決定力」の育成に大きな成果をあげたのではないかと考えられる。批判思考を働かせたり、情報を分析したりと児童生徒が「意思決定プロセス」の中で悩み、考え、自分自身の力で道を切り開く、そのことが将来にわたって児童生徒の生きて働く力になると確信している。つまり、「意思決定力」を育成する場を学習の中に組み込んでいくことは、児童生徒を「エコロジカルな消費生活者」として育てるうえで重要と捉えることができるのではないだろうか。

2. 今後の課題

本研究会議のねらいとしている「エコロジカルな消費生活者」の育成には、長い期間が必要である。児童生徒が「意思決定」したことを、日常生活の中で実践することで、初めて「エコロジカルな消費生活者」といえるのであるが、「意思決定プロセス」においても行動に移すところが大変むずかしい。「意思決定の場」を設定した授業を一回行ったからといって、すぐ行動に移せるというようなことにはならないのである。

今後は、児童生徒が「意思決定」したことを実際の生活の中で行動に移すための具体的な方策を探ることや作成した小・中学校向け指導資料集の活用成果を明らかにしていくことを課題としたい。

おわりに

本研究会議では、消費者教育における「意思決定力」が、児童生徒のこれからの生活での主体的・実践的な態

度を支えるものとして重要なことに着目し、2年にわたって研究を続けてきた。

家庭科の学習の中でも、調理実習が好きといていた児童が「くらしと買い物」の学習が終わったあと、「この勉強もすごくおもしろかった」「こういう勉強も楽しい」などの感想を述べた。教師が十分な教材研究を行い、学習のねらいを明確にして題材の設定や授業展開を工夫すれば、自分で考え決定していく学習にも児童が楽しさを感じるということである。これからの社会を担う児童生徒には、より賢明な「意思決定」のできる人間としての成長を願うとともに私たちもより一層の研鑽をつみたいと思う。最後に、本研究を進めるにあたりご多忙にもかかわらず、ご指導いただきました多くの先生方をはじめ、各所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

・参考文献

藤枝恵子・内藤道子他5名共著

『家庭科教育における消費者教育指導の実際』

家政教育社 1979年

B. ポウルチ

『家族の意思決定』 家政教育社 1985年

武藤八重子・松岡博厚・鶴田敦子共著

『消費者教育を導入した家庭科の授業』

家政教育社 1992年

日本消費者教育学会編 光生館 1992年

『学校消費者教育推進のマニュアル』

『日本家庭科教育学会誌』第36巻 第2号

1992年

文部省『環境教育指導資料』（小学校編） 1993年

文部省『環境教育指導資料』（中学校・高等学校編）

1993年

今井光映・中原秀樹

『消費者教育論』 有斐閣ブックス 1994年

櫻井純子・橋本都 明治図書 1994年

『小学校家庭科で進める環境教育』

・指導助言者

共立女子大学教授 藤枝 恵子

横浜国立大学助教授 金子佳代子

川崎市立末長小学校校長 平林もと子

(小学校家庭科研究会会長)

川崎市立大師中学校校長 矢部 典子

(中学校技術・家庭科研究部会長)

川崎市立東小田小学校教頭 渡部 和美

川崎市教育委員会指導主事 本間 智子